

I. 計画及び準備

1. 桜を植えるポイント（成育に適した場所）

1) 日当りを好む：桜は日当りのよい場所を好みます。日がよく当り、まわりに障害がない場所を選びましょう。日陰の場所ではうまく育ちません。

2) 土地を選ぶ：水はけがよく適度に湿り気があり、肥沃な土地を選びます。水捌けの悪い場所、地面が固い場所、養分が少ない場所などでは植える前に十分な土壌改良が必要です。

2. 桜を植えるポイント（土づくり）

土壌改良を必要とする場所と改良方法

1) 水はけの悪い場所：雨の上がった翌日も、土に溜まった水が引かない湿った場所は、過剰な水分が地面にたまって桜を植えても根腐れなどの障害を起こして、根が腐敗してしまい、桜を植えてもよく育ちません。

○ 調べ方：

桜を植える予定地に 30 cmの穴を掘り、その穴の上まで水を入れます。

1 時間経過しても穴の中に水がたまっている場合は水はけの悪い場所と考えてよいでしょう。

○ 改良方法：

暗渠排水を設けるか、盛土をするなど排水対策をとって植える必要があります。

2) 地面が固い場所：踏み固められたりして地面が固い場所では、根が伸びることが出来ず、桜を植えてもよく育ちません。

○ 調べ方：

直径 1 cmの園芸用支柱を地面と垂直に立て、両手で持って強く地面にさし込みます。

50 cm以上ささらない場所は固い場所と考えてよいでしょう。

○改良方法：

植えた桜の根が伸びることが出来るように直径 2m、深さ 0.7mの範囲を掘って地面をやわらかくします。

3) 土の養分が少ない場所：地面が固くないのに生えている草の葉色が黄色味を帯びていたり、草丈が低い場所は、土の養分が不足しており、桜を植えてもよく育ちません。

○改良方法：

植えた後での土壌改良は難しいので、植える前に完熟堆肥や肥料を施しましょう。

4) マサ土の場所：関西で多くみられる土に、花崗岩が風化して出来たマサ（真砂）土と呼ばれる土があります。マサ土は養分が少なく、乾燥しやすい性質をもっています。また一度踏み固められると硬くしまりやすく、水はけが悪くなります。つまり、1) 水はけが悪く②地面が固い③土の養分が少ない、桜には向かない場所となります。そのため、特に土壌改良を十分に行う必要があります。マサ土はきちんと土壌改良すれば桜が育つ場所になります。